

を以て、正方形の四部に分割し、商店櫛比、内露商の開店するもの三十餘戸、棚を架け、幕を張りて、衣服、雜貨、肉、菜、糕、菓實等の類、一も備はらざる無く、人馬の往來織るか如し。

## 廣仁城

廣仁城は、綏定城の北方約七里に在りて、其地を蘆草溝と呼ぶ。東北塔爾奇峽谷を扼し、西南妖魔山を隔て、瞻徳城と相呼應す。乾隆四十二年の造築に係り、城壁高さ一丈三尺、周圍半里餘、人家約一百戸を有す。

## 瞻徳城

瞻徳城は、綏定城の西北約三里、其地を清水河と稱す。乾隆四十年創築する所と城壁高さ一丈三尺、周圍半里餘、東西南の三門を設く、同治回匪の亂に、清兵早く退き、唯回民のみ住居せしが故に、其の慘害を被らず、城樓廨署等悉く舊態を存し、城内には游擊衙門ありて、人家約二百戸を有せり。

## 拱辰城

拱辰城は、綏定城の正西約十三里、其地を霍爾果斯と稱し、乾隆四十二年の創築に係り、城壁高さ一丈七尺、周圍半里餘、城内參將衙門、通判衙門(綏定縣管轄)等を置き、人家約百五十戸を有す。該城は露清の國境たる霍爾果斯河を東に距る僅に里餘、實に彼我交通の關門たり。霍爾果斯河岸は露清兩國の戍兵各處に對峙し、屯在警戒す。

## 露清兩國